

内閣文庫
和書
番號和 29365
冊數 3 (1)
函號 267 85

和書門
類
番號和 29365
冊數 3 (1)
函號 267 85

内閣文庫
番號和 29365
冊數 3 (1)
函號 267 85

地五六

267-85



題信濃地名考

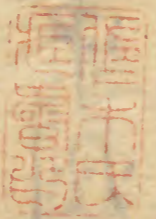
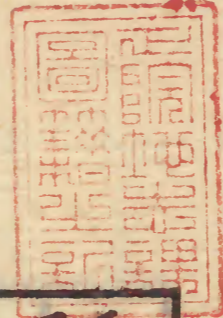
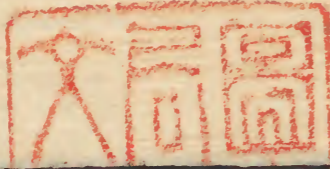
我之有信猶彼之有蜀也山

眾魏以嵯峨水渾深而揚波

人磊砢而英多往時豪傑輩

出割據以抗衡竄穴鑿金止齒猶

以北方勇闡矣山澤之間固多名



區奇蹟唯以所在奧冥路亦
嶮絕游履者幾希矣雞山
吉君信陽人也生長岢嵐邑體
便登陟幽峻必極為圖記事
以借臥遊之觀近者示予曰山
川之美如此何不為之於中州

此好事者之所為憾也吾將附
剗刷氏請子一言予乃閱之嘆
曰吾少有志于探勝中歲為
官所絆夙願不遂今觀此篇也
猶躬法親覩焉此舉也豈
可無言乎遂題之

明和辛卯仲春望

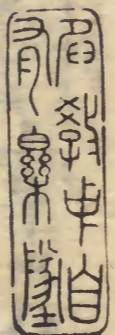
信陽源通魏識

東江源

鱗書



信陽地名未詳



信陽之為國也。其地東西五十餘里。

東入汝水。西入汝水。其地多山。其地多水。

飛城甲第。其地多山。其地多水。

東有確石。其地多山。其地多水。

此身信公。賜太子。其地多山。其地多水。

事部大坂軍山道。詔書及信神
祠。國々善光古刹。之山也。水治
京牧。種。之。山。建。六。五。の。元。之。為。未。
類人。駭。之。其。打。後。後。新。流。為。為。士
お。為。派。之。者。皆。記。之。十。年。前。の。う。回
之。事。女。人。之。在。也。河。何。山。懐。中。の。以。經。終。

決。之。方。位。四。洲。山。川。隨。等。在。歴。新。
是。向。此。等。諸。山。之。少。回。年。幾。何。以。經。
崇。相。如。善。教。亦。皆。見。一。梁。其。位。未
相。公。也。時。在。之。由。生。者。也。為。相。然
崇。神。位。之。亦。之。南。間。山。在。也。也。
海。按。神。也。立。神。山。為。東。之。經。子。

西面註山。幸之。お。岩。流。淡。お。倚。
子。保。河。煙。出。甲。之。果。女。流。北。折。至。
掖。後。入。海。右。之。山。高。申。之。稍。遠。駒。
嶽。之。岩。申。之。子。幸。清。嶽。高。申。而。子。
之。子。幸。最。之。之。死。浮。山。高。之。折。聯。緒。
長。里。西。成。皆。偏。曠。棧。棄。山。以。中。之。山。

當。成。沃。野。曠。乎。摩。河。流。注。之。之。稍。
甲。高。以。之。者。來。落。林。藪。點。之。之。之。如。
厚。埃。折。登。信。見。烟。霧。之。之。之。善。
光。生。也。戶。信。敏。能。思。姬。法。山。馬。之。の。
乳。位。最。高。之。妙。香。山。奈。來。就。後。州。立。
乃。轉。越。中。京。幸。出。白。山。陸。野。城。二。州。

其山高者。河内。蔡。宣。如。名。之。野。尻。池。
高。者。子。皆。如。如。者。其。状。立。信。越。一。累。
松。城。頂。坂。坂。少。信。結。在。西。小。山。之。子。織。
高。山。下。并。支。前。平。者。深。極。目。者。皆。在。
之。之。也。海。之。也。或。有。人。海。源。其。亦。見。
者。之。也。定。信。一。中。者。當。一。中。可。者。皆。在。

之。也。與。有。之。是。信。後。少。也。者。皆。
深。海。之。也。見。之。也。山。源。亦。毛。也。
標。之。少。也。當。深。信。者。一。毛。也。子。皆。
之。也。確。口。嶺。立。信。毛。大。牙。之。象。釋。者。
者。之。也。少。之。標。上。毛。如。也。信。一。累。
一。信。之。也。皆。在。秋。父。少。也。當。武。州。也。

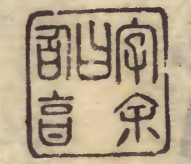
甲子以望。癸丑十二夜。忽見。如日。如月。如
 際。高。蒼。三。揚。胃。羊。牝。子。似。少。一。這。無
 半。後。來。好。少。子。如。若。以。和。以。自。以。以。
 多。偏。者。以。以。神。中。事。矣。三。夜。以。以。海。
 至。當。若。其。信。漢。地。名。矣。然。以。以。古。籍。考。
 之。新。以。博。而。有。格。以。以。以。以。以。以。以。以。以。

似。祠。廟。青。兒。孔。象。一。物。在。其。以。以。
 或。并。以。國。文。德。建。生。舞。漆。年。讀。以。
 幸。突。以。以。國。自。上。或。注。本。四。阿。以。以。
 如。余。以。以。以。以。以。以。以。以。以。以。以。以。

明和庚寅寅月

安魚自中伯子南深

唐書卷一百一十五
 西域傳第五十五
 大宛國
 大宛國在葱嶺之西
 其俗風土與中國同
 其地多水澤
 其俗多畜牧
 其俗多戰鬪
 其俗多勇力
 其俗多智謀
 其俗多禮儀
 其俗多節儉
 其俗多忠信
 其俗多仁愛
 其俗多孝悌
 其俗多友愛
 其俗多和睦
 其俗多和平
 其俗多安寧
 其俗多康樂
 其俗多富貴
 其俗多尊榮
 其俗多顯赫
 其俗多光輝
 其俗多榮耀
 其俗多尊貴
 其俗多顯赫
 其俗多光輝
 其俗多榮耀
 其俗多尊貴



其地多水澤其俗多畜牧其俗多戰鬪其俗多勇力其俗多智謀其俗多禮儀其俗多節儉其俗多忠信其俗多仁愛其俗多孝悌其俗多友愛其俗多和睦其俗多和平其俗多安寧其俗多康樂其俗多富貴其俗多尊榮其俗多顯赫其俗多光輝其俗多榮耀其俗多尊貴其俗多顯赫其俗多光輝其俗多榮耀其俗多尊貴

唐書卷一百一十五
 西域傳第五十五

ありひよふまは...
 ちふく...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

吉...
 あま...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

斗

二

傍觀の誹笑のれ

本邦と安曇郡と誤傳する源平盛衰はたれり國史並書の文ありはと之も既三代交り
りて坂上公とて更張と筑摩郡の境とより澄り又みづりに信濃十二郡と記するは是
ふかしく世の世あり按中代りこれ地名も戦國に於て改換の軍已り氏りて借改り
とのすかき

一地名に部の故あり半國史より大伴部指名部山部等の類は是あり又姓より出る地名を
多しこれ姓は七道のむくより京畿に輻湊する其甲姓ありもの平城嵯峨兩帝は此時より
凡姓氏一千二百八十二氏と之今當國の二と采をわたり續日本紀桓武の延暦八年信濃國筑
戸郡人後部牛養等賜姓田何造云云姓氏錄小後部高り今執田光村是也又三代交
録清和の貞觀五年諏方郡人金刺舍人賜大朝臣云云大出の地名是也今屬伊
奈郡其餘味酒部と
安坂と常澄と氣とす上上の語と物よりモト井と茂田井とす下下の物ありと云
とより音の通く或清内の氏骨と清内路と三歳祝部と三才と五何と五束ありと云
後世字音よりより俗習也此類又多一或條里町及の字田令よ出餘戸坊保令よ出神服嚴本
神祇令出其餘山川物色にあり地名ありはより是其大畧也蓋草創のころ其國は山河物産
より名ついでん例りて地名多る謂也名苑の同名なかり且國郡の分城沿革已
み久しきに在り文明の泰剝天正よりして白とせり御村の興廢得て多し雅名變りて適
俗稱遺りりるや敬服の民勝地より預詠の跡と藤小やもすれは此譯より及んは是但語
云く撮上の見聞と考り事あると支のと信の國さの郡故大井は是民移山より

信濃地名考目次

上編

一信濃道國形 一延喜朝古驛五郡 伊奈諏方筑摩
小縣佐久 共十五驛

今驛四郡 筑摩 諏方
小縣 佐久 共二十六驛並圖 一倭名鈔信濃國

卿名有七 考見千五郡上卷五郡中下卷每郡附姓氏

一國郡名義並鄰近地名考 一諸郡夏實補遺

中編

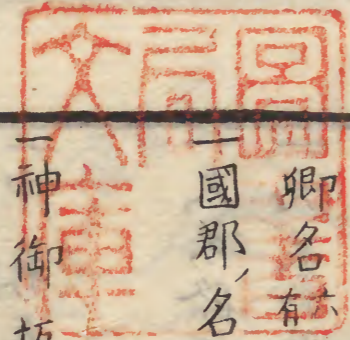
一神御坂 伊那南
郡之圖 一菌原 伏屋里 蒂木 木賊 曾乃原山之說
諸郡曾乃原異說之辨

一信濃乃野 一伊奈乃郡 一管乃安良野 一檮乃關

一風越峰 一渠乃里 一安多之野乃山 附
富士哥國二中之說

一諏方湖 古礼毛我御崎
衣ヶ崎 天中河 南方刀美神社 風祝部
御射山 穗屋野之說

一木曾梯 御坂川路 森衣 古鉢小吉菴之辨
縣坂上峰之說 並圖 穴般覺床 非名也 駒高之名義





科野之國形

延喜式古驛
諸哥集名所

和名鈔御名
其地惣名

往古牧地名
今在温泉地

美乃国泳官景行天皇行幸地也万葉卷之十三長歌百詩年三野之國之高比能八十一隣之宮兩日向亦行紫園矣右登田而吾通路之奥十山三野之山下各
 夫木集
 此
 あ

下編

- 一 東間乃御湯
- 一 信濃乃御湯
- 一 清水里
- 一 桐原牧
- 一 相染川
- 一 浅葉野
- 一 浅間里 以上圖
- 一 有明山
- 位山
- 一 笠取山
- 附 阿都佐山 梓川
- 阿計呂山 佐野 共非名処
- 一 更級里寺
- 御言川
- 姥捨山四境之圖
- 一 中麻奈
- 一 多波志根山
- 一 都井
- 一 七久里乃湯
- 一 久米路乃橋 圖
- 一 高御倉山
- 一 伊弉册の社
- 一 風間神社
- 一 犬養乃湯山
- 一 高井乃山
- 附 佐野
- 一 埴科乃石井
- 一 隔山
- 一 浦野乃山
- 一 うゝの山
- 一 うゝの山
- 一 塩田川
- 一 那須乃御湯
- 一 千隈河
- 一 浅間嶽 附
- 一 蓼科山
- 一 蕎麥原
- 一 砂土月御牧 馬寮式東鑑等古馬城之地圖
- 一 延喜式諸貢物

丈木集
この水はたつたりの川
のうらたつたりの川

甲斐國



上野國



上野國
上野國
上野國



信濃地名考上編

吉澤好謙輯

志那乃路

万葉古国哥
 信濃道者伊麻能波里美智可里波祢爾安思布麻之牟奈
 久都波氣和我世

按古事記曰

神八井耳命之後科野國造

或曰高穴穗官朝以淡城
 国祖建許意命定科野国

造りわら成務帝
 の御宇にふ

日本紀曰

天武天皇十三年二月遣三野王小錦下采女

臣筑羅等於信濃國令看地形將都是地歟云夏は始めふのに平記云

此乃と等場を奪りて信濃の國形を造ると見え續日本紀文武天皇大

寶二年三月信濃國獻梓弓一千二十張以充太宰府
 又慶雲元年四月信濃國獻梓弓一千

四百
 張 茲年十二月始開美濃國岐嶺山道
 按文武紀十二月関山齊明紀
 十二月群蠅等史筆月乎 大寶三

信濃地名考上編

年正月遣從六位上多治比真人三宅麻呂于東山道巡省政績同

二月甲斐信濃越中但馬土左等國一十九社始入祈年幣帛例按信濃國

名神五座是乎三月信濃國疫給藥療之又慶雲元年三月信濃國疫又和銅三年二月疫同四年

三月給鐵印凡二十三國使印牧駒犢先是文武帝即位四年三月令諸國定牧地放牛馬元明紀和

銅元年小治田朝臣宅持信濃守に任とふと八月始行銅錢

同二年三月甲斐信濃上野等七國と徴發して陸奥越後二國の蝦

夷小備一事見于高井郡日野條下同六年五月畿内七道諸國郡卿名著好字其

郡内所生銀銅彩色草木禽獸魚虫等物具録色目及土地沃墾山

川原野名号所由延喜民部式曰凡諸國郡内郡里等名並用二字必取嘉名茲年令信濃國獻硫黃

元正紀養老五年六月割信濃國始置諏方國茲年八月以諏方飛彈隸美濃按察使聖武帝

神龜元年流配の遠と定りゆふに諏方國伊豫國と中流ゆふ後天平

三年廢諏方國并信濃國同十年春信濃國獻神馬黑身白髮尾云云

八月令天下諸國造國郡圖進云云吾志の國と郡と十にわがらふハ

あゆむ時たれ一孝謙天皇天平勝室六の二月信濃國防人部領使上

道が奉承の歌万葉集小出て神の御坂は名をにわらふ平城天皇大同年

中傳教大師為衆生化道下東國信濃の嶮と云々山中旅店稀ありと

歎き廣濟廣極は二院と建ふみちゆさくといひと字え大師置兩院陟巽有

復美乃境内名廣濟信濃境内名廣極也見元亨釋書其地未詳和銅のゆる岐嶺キソノチの名は有なる延喜紀

御宇驛路ハハ伊那の郡にあり延喜式小所謂驛傳伊那諏方ハニワタヘ

小縣佐久五郡にあり伊那郡佐馬十足諏方筑摩小縣佐久共四

郡名五足と云ふを依由馬字馬夜の地

- 阿智 驛馬三十足
- 育良 同十足
- 賢錐 同十足
- 宮田 同十足
- 深澤 同十足
- 覺志 同十足
- 錦織 同十五足
- 浦野 同十五足
- 亘理 同十足
- 清水 同十足
- 長倉 同十五足
- 麻績 同十五足
- 亘理 同五足
- 多古 同五足
- 沼邊 同五足

孝德紀曰大化二年始置関塞防人驛馬傳馬及造鈴製定山河

天平十二年令天下諸国改駟馬一疋所負之重大二百斤以百五十斤爲限按延喜兵部式信濃国驛錦織浦野長倉以下六駄前後紛乱云々宮田以上四駄伊那此

官道圖

○美濃國惠宗郡坂本

倭名鈔坂本御名即是

按續日本後紀仁明帝承和五年惠宗郡大井驛家人馬共疲官倉鎮作因

茲坂本驛子悉逃諸使擁基国司遣国造真祖父令加教諭於是逃民更

飯連蹤不絶と云ふ今大井驛中津川の間に坂本驛あり

御坂

惠奈嶽ハ美濃信濃兩國の境伊那郡ハ西南にあり是と御坂越と云ふは彼

わが世小日本武尊披烟凌霧の薩間を跨り信濃坂是より後世古曾

部入道英流の因洲は保小坂あり

を以て後世本等の湯坂と云ふは神代御坂今ハ野宮と云ふ人

かゝる代 駒場をこら小野川を以て

園原 伏屋里

その系のうちにありては人々のいふところ今廢て久しきなり
よひ不ふ一民あるに
六條院大進

みくらをともひもつたふふわやとハそのつらとつたふふや
接する所の東北登神といふ村あり阿智の神社の北にありて西北に流るる河智

川の邊に駒場といふ邊に天龍川に入る神名式に伊那郡二座阿智神社大

山田神社といふと舊事紀天思兼命註自天降信濃國阿智祝部等祖

いふ所なるに御坂を系とせりて右に大野式の大野 大野小野川駒場

牧の地は駒場駒場駒場駒場 等以地名する

信濃國伊奈郡阿智驛 已廢其地未詳唯阿智川の名ありて下流ありてあり

延喜式日阿智驛子免課役云按阿智のりや上古本國樞要地也 驛馬 三十足

又中の代に閑を置る故會地の閑は歎えたる今も閑の駒場中閑向

閑といふ村對阿智吾道會地樞要の閑 已廢未詳今飯田城南阿智川以北稱伊賀良庄唯伊賀良垣名存

育良驛 尊勝寺 郡戸元 殿下 今部大庄飯田の北にあり伊那以南

東鑑伊賀良庄 七十餘里いみへの曠野多とらん万葉菅野あり此に方えたり野史曰神

代大嘗持命巡行此國到坐阿羅野云今らち川の南に菅野村ありて餘

野といふ名もよふおほくありて 宇治拾遺物語に陽成院位に

いふと時権道則宣旨とあり陸奥へありて小住流國ひきつて

此例とありいひゆると 盛表記に信濃國伊那郡 梅古野五郡の中いふ

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

地名もいふと真部といふありて伊奈の郡司といふありて

いづの般名とけは誤りなり

躰^{カタ}貝^{キリ}錐の^{しほ}や

今片桐驛存 阿智川を伊賀良庄のより九三十里許自飯里
片桐十八里

東鑑曰元暦元年六月賜片桐郷於小八郎為安父片桐小八郎景重平治

合戦之故尤馬頭に忠なりと云えり ● 片桐の北上穂^{ハバ}郷あり

方言 和夫

天文軍記波部より

是也今属邑七

宮田はくすや

今宮田驛存 自片桐九三十里許

宮田の北にいづる村あり此地西ハ木曾の邑一東ハ高遠に因も按にいづる

猪名部は木匠^ノ信^シ行^キ多^クなりと云べし今本節用集補に伊素部高取と云ふ

加へ信濃十二郡と記さるるに應仁文明の諸士已に因にあり

と云犯しと云敷なり ● 昔聞集小一條院御秘藏の多麻呂と云

いづれもさるるに信濃と云ふにさるるにひまわりて一敵感のわたりと云ふ

いづれもさるるに信濃と云ふにさるるにひまわりて一敵感のわたりと云ふ

按郡字

宜作御

ひられ檢校豊平といはるる事し大番役小登と云ふ時の事しと云

今按高遠のそに非持り村あり其地も信濃一世紀に根津長平依田

豊平系可追考一云源頼金吾忠隆男後冷泉院朝人出羽國司應鳥養達人晚年使

女嫁祢津負直授甚黄書云

節婦

續日本紀景雲二年六月伊素郡人他田舍人千世比賣少有才色家世豊贍

年二十有五喪夫守志寡居五十餘年哀其守節賜爵二級

倭名鈔伊素郡

御名五

輔象 和名

伴野 方廢 村存

麻績 已廢

福智 方廢 村存

小村 已廢 小宗存

按輔衆ハフモロ音通り〜ホムラ〜今の上穂郷な〜方言和夫
 波ハ和ワ唱カふハ音便ハ半濁ホ保ホとタ濁ナもモ清濁カ〜とト綴ラ〜いイ〜
 此郷ハとトあア〜やヤ〜ひヒ〜さサ〜くク〜順ナ々々穂ホ村ムラ〜とトのノ字ジ名ナハハ〜
 やヤ〜かカ〜或シ〜此コ他タ地チ名ナ〜穂ホ穂ホ乃ノ〜つツ〜のノ郷カ此コ名ナにニ行ユ〜いイ〜とト〜やヤ〜
 〆シとト未ミ〜いイ〜ひヒ〜のノ此コ郷カ不フ稱シ〜とト〜いイ〜とト〜
 ●麻績郷廢跡不詳平家
 物語ハ〜とト〜みミ〜とト〜光クワ〜とト〜いイ〜とト〜後ノのノ訓シとト〜也ヤ〜或シ記シ不フ伊イ素ソ那ナ麻マ績シ郷カ
 宇ウ保ホ邑イにニ住ジ〜りリ〜善ゼン光クワ寺ジ如ニ來ライとト居イ〜るル〜事コト〜也ヤ〜今イマのノ座ザ光クワ寺ジ村ムラ不フ捨シ山サン如ニ來ライ寺ジ
 一ヒト〜とト〜其シ色シキにニ飯イ保ホ村ムラ住ジ〜りリ〜是コノ宇ウ保ホのノ名ナにニ住ジ〜るル〜とト〜
 〆シとト〜とト〜なナ〜とト〜
 ●つツ〜とト〜のノ地チ名ナ〜いイ〜のノ姓セイおオ〜はハ〜本ホン郷カ〜とト〜いイ〜のノ
 ゆユ〜とト〜いイ〜今イマのノ伴バン野ノ〜とト〜いイ〜はハ〜並ナ不フ官カン的テキ久ク米メ寺ジのノ村ムラ〜いイ〜意イ大ダイ伴バン部ブ

依イ婆ハ部ブ播ハ名ナ部ブ麻マ績シ部ブ久ク米メ部ブ豆トウ良リヤウ部ブ美ミ和ワ部ブ土ツ武ブ部ブ依イ補ホ部ブ山サン鹿カ部ブ豆トウ良リヤウ部ブ
 小コ出シュ芽ゲハハ多タのノ姓セイ許コ〜はハ〜伊イ部ブのノ韓カン〜とト〜いイ〜とト〜
 場バハハ有ユ波ハ月ゲツ良リヤウハハ伊イ部ブのノ韓カン〜とト〜いイ〜とト〜
 按ア湖コ水スイ西セイ方ホウ廢ヘイ三サン澤タク邑イ也ヤ〜とト〜いイ〜とト〜
 四シ五ゴ里リノノ也ヤ

諏方郡深澤驛

按ア湖コ水スイ西セイ方ホウ廢ヘイ三サン澤タク邑イ也ヤ〜とト〜いイ〜とト〜
 四シ五ゴ里リノノ也ヤ

倭名鈔諏方郡

御名七

- 美和 方廢大 回村存
- 豆良 存
- 桑原 存
- 神戶 存
- 山鹿 廢
- 土武 和名土真 富部邑存
- 依補 和名元布 沢村存

按ア土ツ武ブハハ今イマのノ富フ部ブ〜とト〜
 ●依イ補ホハハ今イマのノ依イ〜とト〜
 ●美ミ和ワハハ今イマのノ大ダイ回カエ〜とト〜

●神戸ふるふるの因史にも源方村の神田をいふ事あり●山麻養々
素洋後には馬寮武小山麻養々といふ事東鑑大位收則に地ありや
今南の大地

二村あり都くせきと
山鹿御ららにあり一東へ今に以村の島村も伊宗郡
の浦十八村あり

属し二十里南に●ついでに源方の地名今の須栗いふ所の村に今の

岡仁谷の岡谷に桑系柏系作安豆良大和の影ひふ姓なり今に桑系

田の桑系あり山系山部山鹿山家山部同一部の言、たゞ山鹿今乃文出ハ文

の姓にゆふし釋底ハ藤原部より三代實錄曰元慶五年十月信濃国

授正六位上池生神從五位下今池之儀村也池生之神其地なりや

●松諏方郡天平年中並省に定ま地ありては久小縣筑摩伊

宗の四郡よりついで例羽北域を廢すとありは或曰いはは代に諏訪神

作久郡に在るといふ遠那のいふ事ありては世云坂上田村麿惡賊退治

の願ふより諏方社と建らるる當國筑摩安曇雜記にあり國史に桓武帝

延暦二十年征夷將軍坂上田村麿征東夷といふ事あり按日本後紀曰大納言

將兵部卿坂上大宿禰田村九川田九子夫養孫身長五尺一寸胸厚一尺二寸目如蒼鷄鬚編

金絲有事而欲重身則二百斤欲輕則六十四斤隨心所欲怒目轉視則禽獸懼伏平居談笑

則老少馴親弘仁二年五月終時歲五十四正三位兼右近衛大

筑摩郡覺志心驛和名加々之旁例あり今の堅石村言驛にありては深はる大畠

●元亨釋書弘仁六年信濃國大山寺僧正智上野國に藏經を驛し●源方々

こく敷十里の峻難四蹄るるいふ事ありては今もぬき石邑の東極系村に牛伏

寺ありて其故をいふ●世傳泉小次郎親衛勳力勇氣傑出万人或有大

船而上平于水陸よりついで按筑摩郡泉の産なり親衛源滿快之子

公衡 釋書曰法燈國師名覺心姓常澄信濃國神林鄉人今按筑摩郡神林

之子 同書解小述部とあり 筑摩と誤る

の産る久しかりを村の西北にあり

同書詳按水南北互理清水二駅と置きあり

その國府東向の地木曾川 松本を北 犀川と合 の東北にありを傳曰此を太古の水多し

故小深川乃名あり 天文軍記 今筑摩郡諸兩峠小深川といふは水邊の

名なり深間川山を流し水と隔る且理清水の二駅あり 本一 ○按此水

犀河にたふらるる也二部と世貫と後川鳥川宇留賀高瀬川寺入水と

流るる河の流は 今筑摩郡の 切切と云ふと流り 今筑摩郡の

地 今筑摩郡の ○犀河ハ駒ヶ嶽の北段に 今筑摩郡の

或ハ駒ヶ嶽に坐たの山百合といふを按古事記ハ大和に 今筑摩郡の

山 佐吾平山 具原氏曰信州犀河に

犀 由理の古語 犀とあり頼朝卿泉親衡小命 今筑摩郡の

犀 今筑摩郡の 乘沢 今筑摩郡の 地を志す 今筑摩郡の 本朝犀 今筑摩郡の

名 今筑摩郡の の 今筑摩郡の といわ 今筑摩郡の る 今筑摩郡の 同 今筑摩郡の 名 今筑摩郡の 國 今筑摩郡の

に 今筑摩郡の 多 今筑摩郡の る 今筑摩郡の 如 今筑摩郡の 賀 今筑摩郡の の 今筑摩郡の 山 今筑摩郡の

に 今筑摩郡の 小 今筑摩郡の 山 今筑摩郡の あり 今筑摩郡の 名 今筑摩郡の あり 今筑摩郡の

寂蓮法師

清水 今筑摩郡の

二條大皇后肥後

按 今筑摩郡の 此 今筑摩郡の 地 今筑摩郡の あり 今筑摩郡の 今 今筑摩郡の 松 今筑摩郡の 本 今筑摩郡の 城 今筑摩郡の 南 今筑摩郡の 理 今筑摩郡の 橋 今筑摩郡の 村 今筑摩郡の

に 今筑摩郡の あり 今筑摩郡の 今 今筑摩郡の 筑 今筑摩郡の 本 今筑摩郡の 城 今筑摩郡の 南 今筑摩郡の 理 今筑摩郡の 橋 今筑摩郡の 村 今筑摩郡の

に 今筑摩郡の あり 今筑摩郡の 今 今筑摩郡の 筑 今筑摩郡の 本 今筑摩郡の 城 今筑摩郡の 南 今筑摩郡の 理 今筑摩郡の 橋 今筑摩郡の 村 今筑摩郡の

必多あり官道下りてぞ ● 總社 方言曾 宇座 一國府かろく物社と建

有事于國內官社則國司率僚屬先修典禮於此其儀如京師神祇官とて
今東向の北小惣社村の傳國應仁文明の亂る國司より治りて筑摩此官府
終に衰敗してとて ● 筑摩郡は大郡式内神三座ありて更級郡小郡小式
内神十二座ありてふ及にわたりて古語拾遺曰至天平年中勘造神帳中臣專權
任意取捨有由者小祀皆列无縁者大社猶廢數矣施行當時獨歩 按小中臣の
權よりして神々幸不幸なり

錦織の驛 己廢其地不詳 倭名鈔錦服御錦部 共通

あしふらひはゆと浦野の向いありてとてやるるべし又後城をとりり

は地名あり記おりの部あり 後城の傍 古より

倭名鈔筑摩守 御 方吉田村 存 宇賀 曾加按宇傳 寫誤宜休宗

辛犬 加良以奴即犬養也八村わて隔川 犬養新田の名あり今屬安曇郡 錦服 爾之古里 己廢 山家 也未在倍已廢 山部地名也

● 按和名鈔山部の御名諸字と避かぬ山部八桓武の所諱故に避之乎大伴八淳和の御諱故大伴と登母と訓を例をて一桓武延曆の詔に臣子之禮必避君諱自今以後改姓白髮部為眞髮部山部為山 山部御今山邊不仍久非も山部ハ和名倍 山邊ハ能倍

大井 未考或 按曾加今の御原のまゝやるぬ一宗賀と菅ハ相考る例あり 大村手 今敷原の奥に養村あり 地名大下津田ジテ原岩洲厨老平ゴバア以上 八村惣名菅と云山と也ハ按曾に會と

後いわたるは他もいふ ● 辛犬ハ辛犬飼の一字と省たりて按安閑紀曰 二年國々置犬養部 光孝實錄仁和元年信濃國百姓辛犬甘秋子向官愁訴 自りて其地をて一民部式曰凡諸國部内郡里等名並用二字必取最名

云 頃々 御名の字と省けりてありしをいふべし ● 錦服郷に按清和帝貞觀

六年二月越後介高橋朝臣文室磨卒文室尤京人本姓膳臣又姓錦部信濃國人也

五代祖膳臣金持娶信濃國人錦部氏女下此治部より他より一 同史貞觀八年

二月伊奈郡寂光寺坑摩郡錦織寺更級郡安養寺埴科郡屋代寺佐久郡妙樂

寺並預之定額 釈書註 額指敷 此治部寺より他より一 ● 二つより坑摩郡に地名

吉田甲口大村清水出水麻績岡田付田ア葉多ハ秦拜志阿礼 ア礼ハ許曾部の叙

名カガのりて今之衣外ハ會加のりて今之衣久ハ揚胡ハ毎部ハ雀部埴原ハ秦原

生野生坂等ハ生部を以て伊深ハ伊福郡安坂ハ味酒郡なり一 前平ハ角ハ此に

出りしに執田光ハ後部高より一 延暦八年坑摩郡人外少初位下後部牛養

無位宗守豊人等賜姓田阿造とて一 按田阿の阿何は誤れ 後部高乃阿何也 ● 貞觀九年授

信濃國正六位上薄水神從五位下按今のまに町を他より一

小縣郡浦野驛

万葉十四 可能古呂等宿受屋赤里寺牟波太須酒伎字良野乃夜麻爾都

久可多與留母

按に浦野ハ谷の惣名今馬越けりやを坑摩郡保福寺地頂と東へ今に

名小支神出掛支村遙に山のとに也出掛ハ古坂の河原名なり一 今に

り村あり後世に名給とひりてさるけり一 此の地名とすえり

麻績のりて 前に互理清水等の侍例に據りて此他もろくよりと按て互理清水

麻績縣を率てんて今坑摩郡にとてりてありしが延喜の時更級郡に

属してりて也ふりて且赤國の記傳五郡に限りてりてりてりてりてりて

麻績守と御中地多々水災にやせしと云々今直理の遺名と
おぼしむ水のころり七八里西小越村あり
或河渡真戸作 後世に地名の
皆通用水邊地名

直理の驛

自浦野水のころり八里十七八里

堂

ふしとのちにやせしと云々は川中地多々の遺名と云々
道遥院

按に源方部と云田北山の志がく小海は海野根は三張と云々田北の驛に

ゆるぬへー ●鹽尻盛衰記に新沼塩尻は是也
按狭間ハ波丸麻上畧
皇極紀谷此云波伏麻 大平

記に裁田山と切塞をいふと云々此も千隈川と云々の狭間をい

地名は源方村の領積のまじりやうらに坂城は地名に云々

てふ云々也と云て依久小野は海多々云々

●上田の北にやうやの地名あり按に牛約はつと云々の名あり
房ハ借字あり

年 云々云々也 年ハ牛聲也と云々源方のゆらみら又同一或峰見は作

仮字也 ●國分寺並國分尼寺天平年中に建南都東大寺と惣國分寺とい

主稅式國分寺領四方束と云々云々(諸國の國分寺每正月八日云々

十四日云々) 轉讀寂勝經
布施三堂經三千斤僧尼各絶一足綿一屯布
二端定坐沙彌尼各布二端但供養用寺物 是神護慶雲

二年制らるる云々云々今村八日堂と云々云々 ●海野郷ハらひ云々の

名跡し世に延喜のひらと滋野氏と云々云々

乃之家と稱を或名天下にわらうる又根津甚平貞直鷹術は名家とい

根津ハ 又復目田と云村と復目左近將監國平奥州の役恭衡追討の賞として

信濃國復目村の地以職を領すといふ云々他云々
國平源滿快後伊宗太郎
為扶之孫云々二辨國忠之

三張村今小縣郡に属す馬寮式新治牧是也又塩河吉田下亦南北に

倭名抄小縣郡

御名八

童女 和名乎 無寺

山家 也未加 未詳

須波 方廢詠 方部存

跡部 和名國 未詳

福田 方廢邑 存

安曾 已廢上下本御 下御三邑存

海部 廢

餘戸 廢

按童女借字より別海野

遠江天龍川上 雲和地名又同例

宇と乎と通り野と宗をかよと

和名抄古野と 布無糸久訓例

万葉のつと娘に等夜乃野爾乎仇藝禰良波里乎仇乎仇毛

鬼ををさばととも東に俗流ととも和名抄因人の語に準流と亦多しとわか

山家未詳今唯作久那蘆田ふ山部の地名とふ所の 須波ハ

今の海方部も久し和名抄一字を省く中代に泉親衡祖父誦方部太郎

扶衡をくすも此住人なるへ 跡部此他他とんを或人跡都了也也

跡部 布 河へ今當御ありと接に假名たふと後乃一 安曾御廢

今本郷下郷之村ある是則之他茶へあむれいと名地われ也 海部

廢と地理を推考は北に海野由小丸子飯所東西小野を水もこの地を

海人部とらにるへ 餘戸 廢と和名抄此地名多し今法ふもに

廢と洋もととも今義解曰若滿平戸者割十戸立二里置長一人其不滿

十家者隸入大村不須別置也とらんへ今餘戸ハこれわす(茶屋) 又佐久郡の 條にんを

或云依田庄餘戸の名は精しと云ふや 依田信濃の 或曰依田川 依田川内村川 氏族興隆地

山形龍頭吐水に似て地名辰口義仲と云ふ 水と和名の驛子乃池とつとつ天竺川

寄田とつとつと云ふや 小縣郡地名も九子の九子部内村ハ

宇連部田中長背福當高志寺カキの姓ありカキ●加島カハタの村に下郷神社に

方言カハタケと云ふ誤り天武紀神服部是也カハタ或綺戸カハタ小作カハタ山城國加幡村紙幡寺カハタと釋書蟹幡皆借字也

神服正字 神護慶雲三年奉神服奉諸社カハタの地あり更級郡の御平川も又

神の祖なるは名あり

佐久郡今屬小縣郡 直理ノマ大畧二十六七里

多古タコの郷

按福津みくろの東に山あり井子イナの村も是多古の郷なり

名ありタコ借字通用 井子諸村を屬し石絶頂イソノケに古道あり●地名一城戸

二城戸ニシロの井子村の山あり是新法收地也深沢を隔く東に菱野牧あり

鑑カミ 小渚コナヅメの北あり

沿邊の驛 自井子大畧十四五里

源重之 志カミの郷ありわさほは山あり

沿邊驛廢不詳溪向山の陽に大沼村 カミ 真樂寺境内に

大より出水イヅミあり沼の名に由あり西に寄の地名あり沼を以て

の沼を名を置し此を長津ナガツの郷なり廢沼にして未詳●此を乃浪

くく玉タマ不何く七玉あり按魚盆家集に玉を以て

つらへと名を置し此を長津の郷なり

●馬寮式塩野牧世間あり

長倉驛 已廢自大沼大畧二十三四里あり

伊勢物語

伊勢物語 依濃より少間の敷に立ちあがりて人の心やハダシ

和野御覽 卷之八

延喜式長倉驛長倉神社長倉牧^ニ今共に廢^レ按東鑑仁治
二年三月海野幸氏與武田光蓮上州三原庄信州長倉保の境を論^ル事
又^レ少^シの^レ神^ノ羽^ノ杉^ノ折^ノあり^テ浦野廢^レ昔^ノ在^リ也^ニ倉^ノ牧^ノ廢^レ地^ノ取^ル谷^ノの^レ地^ノに^テあり^テ也^ニ
駒^ノ形^ノの^レ神^ノ羽^ノ杉^ノ折^ノあり^テ也^ニ
浦野廢^レ昔^ノ在^リ也^ニ今地名杉折明應の記杉賣^ノ作^ル也^ニ按菅生の地名後世に文字改^メたり^テ也^ニ ●長倉
按元明帝靈龜元年四月諸国造倉^ニ率^テ為^ス三^ノ寺^ノ大^ノ受^テ肆^ニ仵^ノ斛^ノ中^ニ參^リ仵^ノ斛^ノ小^ノ貳^ノ
仵^ノ斛^ノと^レ又^レあり^テ也^ニ ●長倉神社或考曰鎮座本紀曰
宇賀魂神為根倉^ニ甕^ノ星^ノ神^ノ根^ノ稻^ノ畧^ノ語^ノ倉^ノ心^ノ也^ニ山^ノ靈^ノ稱^ノ石^ノ倉^ノ木^ノ靈^ノ稱^ノ子^ノ倉^ノ隱^ノ
岐國有^リ宗^ノ岐^ノ良^ノ比^ノ賣^ノ神社^ニ按^テ長^ノ訓^ノ宗^ノ和^ノ云^フ長^ノ稻^ノ畧^ノ語^ノ倉^ノ岐^ノ良^ノ共^ノ通^ル也^ニ
按^テ此^ノ使^ノ因^ノる^レ長^ノ倉^ノの^レ理^ノと^レ云^フ安^ノ用^ノ紀^ノに^テ長^ノ倉^ノの^レ事^ノと^レ云^フ此^ノ氏^ノ源^ノに^テ

好謙

朝國^ニ天^ノ師^ノ命^レ之後^ニ長^ノ倉^ノ造^ルあり^テ也^ニ倉^ノ地^ノの^レ名^ノ勿^レ論^ス長^ノ倉^ノの^レ高^ノと^レ云^フ
諏^ノ方^ノ神^ノの^レ名^ノと^レ云^フ例^ノ羽^ノの^レ沖^ノと^レ云^フ ●推^ノ古^ノ紀^ノ曰^ク三^ノ十^ノ五^ノ年^ノ五^ノ
月^ノ信^ノ濃^ノ國^ノ繩^ノ聚^ル至^リ野^ノ國^ノ故^ノ也^ニ作^ル久^ノ郡^ノの^レ事^ノ實^ノと^レ云^フ
比^ノ宗^ノ久^ノ母^ノ理^ノ宇^ノ須^ノ比^ノ乃^ノ佐^ノ可^ノ乎^ノ古^ノ延^ノ志^ノ太^ノ爾^ノ伊^ノ毛^ノ賀^ノ古^ノ比^ノ志^ノ久^ノ和^ノ須^ノ良^ノ延^ノ
奴^ノ可^ノ母^ノ
古^ノ遺^ノ物^ノ名^ノあり^テ舟^ノ上^ノ毛^ノ汎^ノ前^ノ同^ノ名^ノ所^ニ
山^ノ形^ノ舟^ノの^レ事^ノ天^ノの^レ力^ノあり^テ也^ニ山^ノ形^ノ舟^ノの^レ事^ノ天^ノの^レ力^ノあり^テ也^ニ山^ノ形^ノ舟^ノの^レ事^ノ天^ノの^レ力^ノあり^テ也^ニ
山^ノ形^ノ舟^ノの^レ事^ノ天^ノの^レ力^ノあり^テ也^ニ
山^ノ形^ノ舟^ノの^レ事^ノ天^ノの^レ力^ノあり^テ也^ニ

倭名鈔佐久郡

御名八

美理

大村

倭名鈔佐久郡

大村

和里各身... 卷之...

大井

餘戸

刑部

青沼

茂理

小沼

以上和名關

按美理子... 訓

按孝德紀小德高白博士黑麻呂
更名玄理云理と口と訓例

み... 音便

美し仁と... 新治

馬寮式新治牧
東鑑新張牧

今三張村存... 属小縣郡 ●大村

村室諸衆邑皆通用

按盛衰記に大室小室... 大系圖大室時光... 大村

廢て... 諸村存... 小法小對... 村... 陽に... 廣平... 大井

大井... 大井... 岩村田の駅

大井ハ下回田井に出... 背向小田井前... 根井今井

東鑑大井庄八條院御領

按八條院拾芥抄百練抄百二條院
暫爲皇居及美福門院

新編纂系圖曰

小笠原信濃守長清七男大井朝光信乃国大井采地云朝光譜曰嘉祿元年二

月於岩村田館率... 乃

岩村田
館地名

太平記建武二年十月大井城攻戦と云

管領記永亨十二年足利持氏季子永壽王九窟干信濃國大井と記せり

後文安二年選鎌倉左馬頭成氏は也世稱古河公方

城主大井越前守
持光壽王外戚

弘治記云

文明十六年二月爲村上氏大井共火城陷と云

東鑑作又大井伴野... 信濃國ニツの大井ニツの伴野と云

佐久二郡ニツ... 佐久ニツの伴野云

●餘戸

治郡餘戸廢... 與古木村存

或云山城國
買支地

或云山城國

治郡餘戸廢... 與古木村存... 今近江國滋賀郡に属

率毎八月十五日に定... 刑部已に廢

地理と考... 大井の

地理と考... 大井の

井野名類... 卷之...

五

和里御身勢 卷之九

今ハ唯孫部の地名あり

●青沼廢末詳梅入江に磯部の地名也西小十日町三條の名あり此も

也二十港イリ水災にイ天正記に上越下越三分イリ千隈

河水配イリの地古事記自註云三分イリ水東西小イリ中込イリ

下此水今乃地と下中込とイリ志イリ水イリ郡は中と

後に地勢小途々東の流に地とイリ●茂理按今の茂田井も

へ一和名傍例備前因御名物理モト井は向一トコとイリト也ト

相をイリ井と茂理ハモトリイリトモトモトモト井ハ口井の約

りハ水とイリトモトモト主水也日本紀景行紀イリトモトモト進

いハ催馬樂ふみイリトモトモトトモトトモトト後世承久記イリトモトモト三望月

小四郎ふと記一とふわひのまひハ地名小敷多一●小沼已廢で大沼村

ろと文禄オモのろと水次ハ亡村と及わろとろ沼をばろとやも小沼

郷分の地名ろと一地名に大小れとのまひハ因ク敷多一常陸志曰

新治郡イリ巨神イリ今小神邑属筑波郡イリ國人常以巨イリ爲小者多イリト

●つとろとイリ佐久郡の地名も母止理部イリ大伴部イリ太田部イリ阿力部イリ竹田部イリ大村イリ蘆

田太右春日部布勢志賀生藏イリ甲櫻井イリの類もかろとイリ阿力部

ハ跡見部の畧也上古ハ御持一鷹鳥飼部イリ大養部イリ射部イリ跡見部イリ寺イリトイリ或曰

周禮ハ迹人あり迹之言跡知會歎處イリトイリ●勝間村に王城トイリハ

あり按光仁紀イリ小掃守イリ王之男小月王信濃国イリに流イリトイリ空亀三年復イリ属イリ藉

姓勝間田と賜ハ事見イリトイリ●本郡へ一英田の神名

和里御身勢 卷之九

⑤

和泉國養老二年安房國能登國等造郡

御の割り本朝の御の事詳ならずと見えたりし御里の字をサト
とひ和洞は福に諸国郡郷と記す此延喜式に諸国郡内郡里と見えたり一曰
御の寛校の曰くありて見えたり凡九戸居校郷有樂遷就寛を處置す
法ありしと見え村ハラ聚也ひらりあつたの義又色字淡てアラと見え
日神天邑君と定め成務紀に国郡邑里と定むる景行紀村の字淡と見え
ハラと見えの字と見え

●信濃國名義未詳

或日本總風土記 朝野群載曰延長三年十二月十四日太政官有曰 舊て傳る

山子白風記平餘卷淡海の時今を記す延喜時成就を代傳る 信濃は國名の

故今今存く強本と見え後今を傳る見えたりと見え 近く加茂翁

の説小據に信濃國へ科野と書くは地名と科の字と多く見え

山國と階坂あり地の名と見えと見えと見えと見えと見えと見えと見え

はしにかるを見えと見え 按本國地名埴科倉科穗科御科妻科波用科仁科
明科尾科駭科藪科等也皆是科坂在地

●伊奈郡 伊奈の大郡南北百七十余里と見え甲斐國と擁一義濃國と

帶と見え伊奈郡の義濃の惠奈郡 貝原氏曰惠奈郡ハ 横長と見えと見え

郡と見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見え

と見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見え

●須波郡 按伊奈小縣流傳伊奈の四郡に見えと見え上古の洲羽は國内を廣

と見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見え

と見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見え

天平三年諏方國並信濃國同十年諸國造郡圖奉和銅四年上野國多賀郡

置と見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見えと見え

國同五年出羽國同六年丹波國美作國靈龜二年 和銅元 年大隅

和泉國養老二年安房國能登國等造郡

和泉國養老二年安房國能登國等造郡

和泉國養老二年安房國能登國等造郡

和泉國養老二年安房國能登國等造郡

●筑摩郡 和名豆 加萬 紀 村あり按此地草創の地名後子郡

と遠なる名に及一なるは一豆加とい高き義同ありをいふは

腋上ワキカミ嗟間ソハの向はふと地理を又はつうま西に斜し片立の地勢あり

師名立都久麻の例なる一犀河ハ筑摩郡と貴く北に流る

東西乃激流十余川尾令と上古の水を郡と濫りの豆加萬ハいふなり

臨り

●安曇郡 和名阿 後世音と略しわつとく安曇郡徳高神社ハ保高比

ひふいすも 神名式 當郡西の方飛彈田小坂合オサカ仰を保高嶽雲にひて

連山丸名一見ふ神號も安曇郡古事記曰綿津見神者阿曇連

等之祖神云姓氏録曰安曇宿禰海神綿積豊彦神子穂高見命後

又海神後海犬養の姓も入り加茂翁曰阿曇は海に下り綿積タツ

の約ツ也トア通し阿曇をアツとゆはうとあり今大町乃奥に

海積砂水とたりと青本海と云 ワラ 次と中つふ乃海と云海は

と云三之海ハ大さとするものなりと云ふは邊と仁科と云 此の地名 按此古伝

地草創は水と流りて此神の勲功仰くへし

●更級郡 和名佐 良志宗 前にもつれ本國人階坂多く科の地名も多し入り

科級階の字地國方と通用する中にも又級ハ科級の字を用く

神樂木綿作歌に由布川久留志名乃波良仁也安佐太徒禰安佐太禰

安允多津禰也 下畧顯昭袖中抄曰催馬樂譜 此の地名乃ハ科野にハ

科坂の義も入り一依良志宗の地名ハ級は字を用ゆし科の義ハ

麩く衣 舊説シナズ本皮ハ白一申も志を於國に生さるるのさへんく
色白くして 諏方の所 裝束は 衣後不用わらわしへて 今按に 更級本の
名子如く 眞級たもちや 佐良 佐宗
佐祿 通用 古事記の 佐那葛ハ 万葉に 挾根葛カサと云
式内加奈 佐宗の 神名ありて 武藏ふかふと云ふありやう 倭名鈔 更級郡
更級郷名あり 是も此地の 閑闕は 時の名もく 後小郡の名に及びぬると
云へる

穀木綿栲之諸説

栲 幡 日本紀 栲衾 日本紀 栲衣 栲領 栲角 万葉 栲繩 古事記
日本紀 纂疏 栲訓 日多俱 放言 綠也 一云 今云

舊事紀 日神天磐戸と云へ 一云 今云 令麻績祖長白羽神種麻
以為青和幣復令津昨見神種植穀木綿以為白和幣並一夜蕃茂也復令天日
就鳥神造木綿と云へる 一説 陶隱居本草注 杜仲一名木綿 折之白系多くあるは
吾國の由布の山ハ木綿は 漢字と用ひたりといふ

麻

古語 フサ 讀てヌサ其子ありのヲと云ふ 苧 ウラムシ カラ

楮穀木也 ●筑紫風土記を援く 長木綿 麻也 短木綿 苧也 ●日本紀私記曰

木綿自有木綿之樹 而木麻其皮以為之 ●豊後風土記 速見郡 抽布郷

此郡中栲樹多生 常取皮以造木綿 因曰抽布郷 栲 似楮色白くありて 吾朝のタケノコ樹
に似たり 栲の漢字と借用たりといふ

●古語拾遺曰 穀木是木綿也 又穀木所生謂之結城 ●一説 東國は 俗ニテ

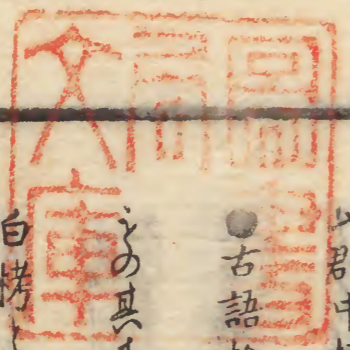
其の其よりへて 一説シナの國にハヒト也 一説 古語ハ 白色と云へ

白栲ト云ハ 一説ハヒトの白し又シラト云フモシカハヒト栲樹とシナハヒト

シラの本と云ハ 乃栲ト申ハ 古語にシラト云フモシカハヒト栲樹とシナハヒト

古語に 古語栲樹ハ 旧事紀の文を以て 穀即木綿也 一私記にハ

穀ト申ハ 二物ト云ハ 一説ハヒトの白し又シラト云フモシカハヒト栲樹とシナハヒト



主政主帳等は官と定めりしをいふの縣主等の制改ありとて又縣名
後ハ郡の名より伊勢物次不縣へいふは之を記す之土佐日記小わす
みふさすといへり萬葉集天平勝室七年國造少縣郡他田舎人大島う歌を載
是郡とてはこれなり

●佐久郡 按佐久は先頃彼の國より此郡申變上毛の間にありての

郡に疎は義なり也或信濃國形 山字似東首 或天平三年割割の義なり以詠方國並

信濃國事へ類聚國史に如し今大典の綱より小わす佐久郡は名はけし

貞觀の録に記す

●ついでり上毛國甘樂郡ハ佐久郡に隣るる甘樂ハ信濃身披の波婆摩

にわす隱國の地なりとて名つちて一此郡南の上よりか子流と武名は

坂川と神奈川より西牧よりか子流と蒸川と二川は名とて甘樂川を以

へ一●甘樂の北碓氷郡ハ佐久郡小保ハ碓氷郡名義未詳 碓日坂日本 宇須比

坂万葉 碓氷和名 芋吹野史 菴井同 井東鑑 熊野權現鐘 笛吹嶺太平記 按

命後當吹連とてその訓より芋吹とて太字記又是に芋吹とて名義一説日本武尊此地に蹲踞少川とて説

老根は凡位々相墨の笛と吹ちて名つて芋吹坂なりとておぼつちり此説なり或

熊野の社とて今も備中備前井川の水源と上古麗泉に石臼とて名あり

出づる今常陸國新治郡碓氷に碓氷を備中の又河内國古市

郡碓氷村とて今も備中備前碓氷に碓氷を備中の又河内國古市

宇須比碓氷とて今も備中備前碓氷に碓氷を備中の又河内國古市

郡名は同じに撰るるつちわがらり地の記に修へ一是は故事にたつじふ

和里谷身勢

わしをいづは那のわしに温泉あり
按草津の噴水は貝原氏
 流湊河川に會
 弟は之位は人様なり

〜〜吾妻川より沼田より又衆水合して利根川より宗祇方魚抄以吾

妻川是よりわつしは里よりいづるや●このまは那ふはの湯といふや

志萬家年此地ありや

志萬家年此地ありや
 神飛世御

(Faded text, likely bleed-through or very light ink)

御坂條下追加
 ○涉信濃坂 左太史正六位上兼行伊勢權大椽坂上忌寸今繼

積石千里峻危途九折分人迷遠地雪馬蹶半天雲岩冷花難笑溪深景易曛

郷關何處在客思轉紛々 見凌雲集●賀陽豊年小野岑守
 等嵯峨帝奉勅撰凌雲集

○保庄 國郡修追加 按孝德紀三年四月造戶籍 中畧 凡戶皆五家相保一人為長 云

元明紀和銅四年凡私鑄錢者斬 中畧 五保知而不告者與同罪 云 拾芥抄
 七十二坊

三百保と 東鑑承久兵乱後諸国郡郷庄保新補地頭所勢之支と又丹後

國志樂在伊禰保といひ佐列長倉保とも又いづり 馭傳長倉條云いづり
 ●上世五家相保より

武家の代は來り一掃して定ふ不也 貞永式目にも御庄保云
 いのちの郷村里も今部

或人云後朱雀帝時在園廢侍の宣下わりし

も行ふいづりぬ又云唐武徳の制四隣為保 保正の
 名わり 宋神宗十家為保五

料部名典勢 卷之二編

十家為都保ありしに成にて直下庄と謂て保とせし事も又由と也

○伊宗真人 信濃守源為公 為公其先六孫王の四男満快の孫に云甲斐守為満の子に母八河内守頼信女とす 名家

ふふとて真人と稱しとす 大系國伊那馬人より傳字也或馬本人伊那馬人より傳字也 伊宗部知久

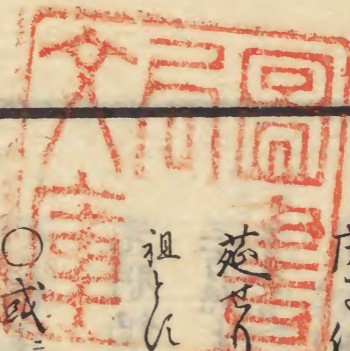
庄は位に 今阿嶋の南の山に座す其流わまはる本國に著

中津 伊那 林 泉 諏方部 室賀 芳美 瀬橋 植田 平塚 松本 蟹田 小田 佐那田 二柳 村上 夏目 依田 手塚 諏方 飯沼 片切 那須 大嶋 等

○或 神武天皇東征のとき紀元湯養の命 真道見命子 尾張國猛力雄

と征服せしめ三河の兵と擊至信濃國殺緑長祇とす アラタキスミヤ 今伊那郡遠

山 和田村よりを列 八家村 七八里 以後て青嶺の峻嶮わり是に地あり



神廟 延喜式載信濃國四十八座

六七座小座一座 ●文德實錄曰嘉祥四年天下諸神不論有位无位共叙正六位上云

伊宗郡二座 並 大山田神社 阿智神社 舊事紀云八意思兼神兒表春命信乃阿智祝部等祖

一云孝元天皇五年天八意命神兒將才力雄命 式 和世田神社 三代實錄貞觀十五年四月授无位

天降信濃國吾道宮鎮座才力雄命戸隄山遷座 外 南方刀美神社 續日本後紀承和九年四月授无位

諏方郡二座 並 南方刀美神社 名神二座 續日本後紀承和九年四月授无位

下同十月授无位健御名方富命前八坂刀賣神從五位下 文德實錄嘉祥三年十月授兩神並

從五位上仁壽元年十月進兩大神階加從三位同八月兩大神祝預於把勢三代實錄貞觀元年

年正月授正三位勳八等建御名方富命神從二位從三位八坂刀賣命神正三位同二月授兩大神

神正二位從二位同七年七月當郡水田三段為南方刀美神社田同九年三月進兩神階知

從一位正 式 池生神祠 陽成天皇元慶五年十月授從五位下 御厩中央御玉神 同年

授從五位下 ●神名秘書云容神社一座建御名形命 一云御厩神云按御厩御玉神亦同神号なり

岡田神社 沙田神社 阿禮神社

貞觀九年三月 槻井泉神社 元慶五年十二月

授從五位下 式 須々岐水神祠 安曇郡二座 小座

（和名）
和名 氏名 昇等 卷之十一

德高神社 名神大・姓氏録曰安曇宿禰海神 綿積豊玉彦神子德高見命之後
川會神社 外式 梓

神祠 貞觀九年三月 授從五位下
更級郡十一座 大座 小座 布制神社 ハヘシテ 波閉科神社

佐良志奈神社 今按貞觀二年二月授 馬皆神從五位下 同七年 當信神社 ウケシテ 長谷神社

三月授馬背神從四位下 同九年三月授從四位上 馬背神從三位以上 神名疑らくハ長谷と傳
寫誤ハカレ或野馬背ハ脱字多ク下卷高井郡とハセテ式社の長谷万葉小長谷郡
和名小谷郡名共レハ他多ク一和名鈔の例小字と者小の字ハ
小長谷郡と云々ハ今塩崎ノ属一長谷郡ハ云々

清水神社 氷鉞才賣神社 ヒカナトメ 願氣神社 イケガ 日置神社 ヒロキ 治田神社 ハルク

武水別神社 名神大・貞觀八年六月授无位武水別神從二位同九年三月 詔以武水別神列官社入御贄川ち祭のみハハ他多ク一

水内郡九座 大座 小座 美和神社 按大三輪と云々ハハ相殿の神ありハ 貞觀三年二月授國業比賣神從五位下 同八年

六月授草奈井比賣神從四位下 草奈井三字恐ハ具素利の誤多ク一國生神ハ大已貴命ハ 父の神名ハ伊勢ハ攝社ハ大土御祖社三座ハ大國玉命同兒水佐佐良比賣命ハ女佐佐良比 賣命と祭ハ大國玉命ハ大已貴命の別名

白皇太神宮儀式帳云國生神ハ云々也 伊豆毛神社 今按出雲國出雲郡出雲 郡ハハハ日御寄神社と

健速須佐之雄命云々 妻科神社 貞觀二年二月授妻科地神從 五位下同五年二月授從五位上

小川神社 守田神社 貞觀元年二月授從五 位下守宅神從五位上 粟野神社

風間神社 貞觀二年二月授廳別神從 五位下今按別字間の誤多ク 皇足穗命神社 卜部兼 永本作 白玉足穗命

健御名方富命彦神別神社 名神 大 外式 神部神祠 貞觀八年二月神祇官 奏言の云々ハハ

高井郡六座 並 墨坂神社 スミサカ 越智神社 小内神社

笠原神社 小坂神社 高杜神社 埴科郡五座 並

栗佐神社 坂城神社 中村神社 玉依比賣命神社 貞觀八年 六月授无

位會津比賣神從四位下 祝神社 小縣郡五座 大座 小座 生嶋足島神社二座

按此神社と云々海守五世也 名神大・按宮中神三十六座生嶋巫祭神二座並大月新嘗生島神是島神貞觀元年正月本受神
官無位生島神是島神並從四位上同二月授正四位則是也舊事紀曰生島是大八洲之靈

科昂名與勢 卷之上編

同神云亦貞觀二年二月授出速神從五位下此神名恐ハ脱字あり同十五年四月授出早雄 神從五位上元慶二年二月授出速雄神正五位下今按以上の神名當社にありハハ大和國の武社

出雲健雄神と云々ハ同方也 貞觀二年二月授妻科地神從 五位下同五年二月授從五位上

貞觀元年二月授從五 位下守宅神從五位上

貞觀八年二月神祇官 奏言の云々ハハ

貞觀八年 六月授无

貞觀八年 六月授无

山家神社 塩野神社

貞觀十五年四月授從五位下

子檀嶺神社

貞觀二年二月授元位騎弓神從五位下

佐久郡三座

英多神社

貞觀元年十一月授無位守達神從五位下今按守宜作安茲年二月授守宅神從五位上

分明同五年二月授守達神從五位上同七年三月授守達從四位下

長倉神社

大伴神社

式部

外 菊科神社

元慶二年七月授從五位下

附

國史所見神

八櫛神社

貞觀五年二月授從五位下

名立神社

元慶二年七月授從五位下

八縣宿禰命神祠

貞觀十年三月授從五位下

伊勢津彦神

日本紀曰天穗日命出雲臣武藏

國造等祖也曰武刺國造祖神伊勢津彦倭姬世記曰出雲神子出雲健子命一名伊勢津彦神一名櫛玉命

●ハシハ毎二月國司長官以下とて會國廳

行海大社ハ 絲三兩 小社ハ 絲二兩 用正統國司みりりり 旅刷戒

ハハ呼祠官頗之其儀儼然

